

BOOK 本の紹介

地球全体を幸福にする経済学

ジェフリー・サックス著 野中邦子訳 早川書房(2009年7月)
定価2,300円(+税) ISBN978-4-1520-9057-7

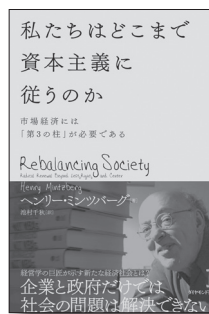
国連ミレニアム・プロジェクトのディレクターを務めた著者は人類が抱えるさまざまな課題は複雑にからみあっており、その解決にはあらゆる利害関係者が協力する必要があると言う。数字をベースとしながら既成概念を越えて社会を変革することは可能であると呼びかける本書は、SDGsに向き合うにあたり読んでおきたい一冊だ。



私たちはどこまで資本主義に従うのか

ヘンリー・ミンツバーグ著、池村千秋訳 ダイアモンド社(2015年12月)
定価1,600円(+税) ISBN978-4-4780-6520-4

社会主義に勝利したと言われる資本主義がバランスを失っている。カナダの経済学者の著者は、政府か企業かという二元論ではなく、多元セクターを交えた均衡の重要性を説く。政府は市民の声をよく聞くべきだし、企業は株主のためだけに存在するのではない。社会のひずみに多角のメスを入れる本書にうなずけない人はいないだろう。



レジリエンスとは何か

枝廣淳子著 東洋経済新報社(2015年3月)
定価1,700円(+税) ISBN978-4-4920-4567-1

激化する気候変動、いつ起きてもおかしくない大震災や金融危機、エネルギー危機、少子高齢化など、現代社会に広がるリスクや課題に対応するとき、必要になるのはレジリエンスではないだろうか。本書はレジリエンスを「しなやかな強さ」と定義し、世界のレジリエンス先進国の取組をつぶさに紹介しながら、それを高めるコツを伝授する。



未来が見えなくなったとき、僕たちは何を語ればいいのか

ボブ・スティルガー著、野村恭彦監訳 英治出版(2015年6月)
定価2,000円(+税) ISBN978-4-8627-6186-6

東日本大震災によって我々の価値観は根底から揺さぶられ、多くの人が社会のあり方に疑問と関心を持った。世界有数のファシリテーターである著者は、震災後にたびたび来日し対話の場づくりを実施した。誰かの助けを待つのではなく、対話の積み重ねによって自分たちが望む未来を描く、そのプロセスの記録はSDGsの地域化の参考に。



環境自治体白書 2014-2015 年版

中口毅博+環境自治体会議環境政策研究所編集 生活社(2015年2月)
定価2,000円(+税) ISBN978-4-9026-5135-5

SDGsを実践するのはほかでもない社会を構成する一人ひとりであるべきだ。住民力・地域力に焦点をあてた白書は単なるデータ集ではなく、地域への愛着を持ち、守り、発展させていこうという意識を持つ人々の集合体としての自治体の活動をつぶさに調査した成果で参考になる。本号掲載の内子町も先進事例として掲載あり。



反貧困—「すべり台社会」からの脱出

湯浅誠著 岩波新書(2008年4月)
定価760円(+税) ISBN978-4-0043-1124-9

日本にも貧困はある。その事実を我々は直視できるだろうか。貧困は所得の低さのみならず、社会のひずみで、さまざまな機会を奪われた状態だ。教育、就職、医療から排除され、やがて生きる意味すら見失う。反貧困を掲げ立ち向かう著者は分野連携の必要性を説く。SDGsの目標1：貧困の撲滅を考えると、日本人として押さえておきたい。

